

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鹿嶋市立中野西小学校 】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者 (学年・人数)	全児童(1～6年)70名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名(体育) ② 行事名(ブラインドサッカー競技体験会) ③ その他() <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック競技のトップアスリートの生き方やパラリンピックへの思いを聞き、共生社会について考える機会とする。 ・ブラインドサッカーの競技体験を通して、パラリンピック競技等の障がい者スポーツへの興味・関心の向上と、障がいのある人への理解を深める。
5 取組内容	<p>～7月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピックについての説明や本校が応援するチーム(ホンジュラス)についての紹介を行った。 ○ 児童が現地語(スペイン語)を用いて応援旗を作成した。 ○ オリンピック応援 男子サッカー「ホンジュラスVSニュージーランド戦」を観戦した。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>～10月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「福祉、障がい者スポーツ、ブラインドサッカーとは」について正しく理解できるよう説明した。 ○ 講師(落合先生)についての紹介パンフレットを掲示した。 <div style="text-align: center;">  </div>

～事業実施当日～

1 低学年のブラインドサッカー体験 3校時

- ・レクリエーション（目隠し体操）では、ペアになりアイマスク着用の立場と動きを伝える立場を交替しながら準備運動や柔軟運動を行った。アイマスク着用の際は、視覚で得られる情報が無い中で試行錯誤しながら行っていた。また、伝える際には言葉だけで伝えることの難しさを感じた児童が多かった。
- ・班ごとのドリブル・パス・トラップ練習では、見えないことの怖さを感じながらボールの転がりを耳で感じているようだった。少ない伝達方法（声・拍手）で伝えようと考えた児童もいた。
- ・ミニゲームでは、異学年で組んだグループにより2試合を行ったが、サッカースポーツ少年団に所属する児童でも「違うスポーツだ!」と話すほど難しかったようである。次第に慣れてきた児童の中には、チームメイトに指示・声かけをする姿が見られるようになっていった。



2 高学年のブラインドサッカー体験 4校時

- ・レクリエーション（目隠し体操）
- ・準備運動（パス等）
- ・ドリブル練習
- ・パス、トラップ
- ・ミニゲーム



3 講演会

落合さんがブラインドサッカーを始めた経緯や競技の中で得られたこと、チームメイトを信じることの大切さ等についてお話をいただいた。児童は話に聞き入り、数多く質問をしていた。



6 主な成果

- ・目が見えない中で、ボールを使ってサッカーができることにすごさを感じたようだった。
- ・元々、障がいをもつ方々に対する先入観は少なかった上に、今回の体験で尊敬に変わった児童が多かった。
- ・何事も極めることのすばらしさを感じたようであった。
- ・落合さんとの交流を通して、明るく前向きで夢のある人の姿を見て、障がいがあっても明るく希望に満ちて生活していくことのすばらしさに感銘を受けた児童もいた。
- ・情報を伝える手段には様々な方法があり、「もっと積極的にコミュニケーションを図らなければいけない」「前向きに生きている人は輝いている」という児童の感想も見られた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 事前に班を作成し、移動方法も工夫できたことで時間を有効に使うことができた。 • 講演会では児童自身が感じたことを伝えられるよう、質問・感想発表の時間を設定して交流を充実させた。 • 各学年児童の感性を豊かにするため、オリンピック観戦だけでなく、パラリンピック競技を体験できるようにした。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 設定された福祉体験学習や一過性の学習ではなく、「共生社会」につながる福祉を目指したい。そして、主体的に考え行動できるような児童を育てていきたい。 • 児童の興味・関心を喚起できるよう、人との出会いや福祉に関する学びを学校教育活動に継続的に取り入れていく。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 3、4年生の総合的な学習（福祉）で本事業で行ったことなどを実施していく。 • オリンピック・パラリンピックへの豊かな体験を他教科領域の学習の資料として生かす。